## 平成30年度 病害虫発生予察特殊報 第3号

平成 31 年 (2019 年) 3月 18 日 山 口 県 病 害 虫 防 除 所

- 1 害虫名: ムナブトヒメスカシバ (Trichocerota constricta (Butler))
- 2 発生作物名 : ブラックベリー
- 3 特殊報の内容 山口県における被害の初確認
- 4 発生経過
  - (1) 発生確認年月日: 平成30年11月5日
  - (2) 発生地域:長門市
  - (3) 確認の経緯

施設栽培ブラックベリーにおいて、春先に枝が枯死する被害が発生した。11 月に 枝の内部を食害するチョウ目の幼虫を採集し、鳥取大学農学部の中秀司准教授に同定 依頼した結果、DNA 鑑定によりムナブトヒメスカシバと判明した。

(4) 発生状況等 本州、四国、九州に分布する。

## 5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

幼虫は枝に穴をあけ、虫糞を排出する(図1)。枝の内部は食害されて空洞になる(図2)。幼虫は白色で、頭部および前胸背は褐色である(図3)。加害を受けた枝は春になると枯れ込む。加害部位は樹の中央から下の部分が多い。

(2) 形態

日本に分布するスカシバ科の中で最も小型で、翅の開長は雄が 14.5~18mm、雌が 17~22mm である。前翅は細く、透明紋は小さい。全体的に黒色だが、雌雄とも腹部 背面に二本の黄色の帯、腹端背面に黄色の毛束を持つ。中脚を上に跳ね上げ、前方~ 伸ばして静止する(図 4)。

(3) 生態

6~7月に成虫が羽化し、夏に産卵を行う。幼虫は枝に食入し、樹皮の穴から虫糞を外に出す。幼虫の食害は秋から翌年の春にかけて進行する。

寄主としてノイバラ、バラ、ベリー類などが知られる。

## 6 防除対策

- (1)施設開口部に防虫ネットを展張して侵入を防止する。
- (2) 秋期に虫糞を目印に加害場所を見つけ、針金で刺殺する。
- (3) 本種に登録されている農薬はない。

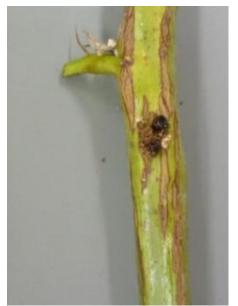


図1 虫糞の排出



図3 中齢幼虫



図2 枝の内部の被害



図4 成虫(鳥取大学 中准教授提供)